

令和2年度

各務原市福祉推進校活動報告集

社会福祉法人 各務原市社会福祉協議会

目次

学校名	ページ数
那加第一小学校	1
那加第二小学校	2
那加第三小学校	3
尾崎小学校	4
稲羽西小学校	5
稲羽東小学校	6
川島小学校	7
鵜沼第一小学校	8
鵜沼第二小学校	9
鵜沼第三小学校	10
緑苑小学校	11
八木山小学校	12
陵南小学校	13
各務小学校	14
蘇原第一小学校	15
蘇原第二小学校	16
中央小学校	17
那加中学校	18
桜丘中学校	19
稲羽中学校	20
川島中学校	21
緑陽中学校	22
蘇原中学校	23
中央中学校	24
岐阜各務野高校	25
各務原特別支援学校	26・27

令和2年度 福祉教育推進事業 主な活動の様子

<盲導犬の講座から生き方を学ぶ> 那加第一小学校



福祉協議会の教育プログラム「盲導犬について学ぶ講演会」に4年生の児童132名が参加しました。講師の藤田さんから、藤田さんが盲導犬と一緒にどんな生活や仕事をしていらっしゃるのかお話をお聞きました。自分ができることは自分でやってみよう、自分の人生をよりよくしようとされる藤田さんの生き方に心を動かす子どもたちの姿が見られました。



<見まもり隊との交流会>

コロナ禍でも変わらず、登下校に付き添ったり、あいさつをしたりしてくださる「見まもり隊」の方々に、感謝の気持ちを伝える会を12月に行いました。子どもたちは「安全を見まもってくださいありがとうございます。」「あいさつをしてくださってうれしいです。」などと感謝の気持ちをメッセージに表し、メッセージとともに鉢花を贈りました。



<ボランティアの心を学ぶ>

6年生を対象にした「生き方を考える会」で、海外青年協力隊として発展途上国での生活をされた川口さんに講話をしていただきました。発展途上国の人々の力になりたいと、自分にできることを見つけて新たな挑戦を続ける川口さんの生き方から、子どもたちはボランティアの心を学びました。



<ボランティアが生む幸せ>

那加第一小学校の児童にとって「ボランティア」は、毎年引き継ぐ「四つの伝統」の一つです。進んで働き、誰かを幸せにするボランティア。そしてやり切った充実感から自分も幸せになれるボランティア。今年もボランティアでたくさんの幸せが生まれました。

ボランティア委員会の児童のよびかけで実施した運動場の石拾い、草取り、秋の落ち葉拾い。学級や学年の取組がきっかけで始まった廊下磨き。花壇の雑草を抜いたり、渡り廊下のすのこを片付けたりと、誰かが見ていなくても自分から行動に移せる子どもたちの姿がたくさん見られました。



<感謝を表す那加一オベーション>

コロナ禍だからこそ心のつながる「ありがとう」を大切にしようと、6月から始まった「那加一オベーション」の取組。毎週金曜日の給食の時間、放送委員会の児童が「一週間を振り返り、私たちを支えてくださる人たちへ『ありがとう』の気持ちを拍手で表しましょう。」と放送で呼びかけます。

「ありがとう」のあたたかい拍手は、思いやりや助け合いによる「福祉の心」も養っています。



令和2年度 福祉教育推進事業報告

各務原市立那加第二小学校

(1) 高齢者擬似体験 (10月)



高齢者疑似体験では、体験キッドを使用した。階段だけでなく、体育用マットの少しの段差でも歩きづら
いことや、小さなクリップを取ることに不自由を感じた。身の回りの生活を見つめ直し、誰もが暮らしや
すい環境にしていくことの大切さを実感できた。

(2) 障がい者擬似体験(11月) アイマスク歩行



アイマスク歩行では、目の不自由な方へのサポートとして、補助する場、見守る場があることを知り、寄り添いながら活動できた。

体験を通して、生活の中でどんなことに困っているのか知り、自分でできることはどんなことがあるか考えることができた。

(3) 障がいのある方からの講話 (12月 1月)



視覚障がいや聴覚障がいのある方から、日常生活についての話をお聞きした。生活の中での楽しみや願いを聞くことで、「障がいのある方はかわいそう」という思いから、「私たちと同じように夢や目標をもっている。自分にできる関わり方がある」という思いに変わるきっかけとなった。

(4) 自分たちにできることを実践 (2月)



1年間、「普段の暮らしを幸せに」を目標にして学び、自分にできる関わり方を考えてきた。そこで、誰もが利用する施設である、福祉センターや勤労会館、学びの森の清掃を行った。

一人一人の児童が役割を担い、真剣に取り組むことができた。

令和2年度 福祉教育活動報告

○福祉について学ぶ



「ふくし」ってなに？

実際に障がいのある方に講師として来校していただき生のお話を聞くことで、資料や教師からの指導では伝わりきらない具体的で生き生きとした内容を学ぶことができた。直接お会いすることで、障がいのある方は特別な存在でなく、自分たちと変わらない一人一人であることを実感することができた。講話や体験を通して、子どもたちは新たな価値観を身に付け、最後には「福祉」について大切にしたいことを堂々とスピーチした。

○障がいについて学ぶ



盲導犬ユーザー



介助犬ユーザー



知的障がいについて学ぶ



車いす体験

各務原市立尾崎小学校

1 令和2年度の福祉教育

尾崎小学校では、5年生が中心となって福祉を学んでいる。今年度は、コロナの影響でいろいろな活動や体験が制限されていたので、前半は、障がいの種類別に分かれて調べ学習を行った。そして後半に様々な体験学習を行った。それらの学習を通して、児童は、障がいをもつ方の変さや苦勞、障がい者の方を支える福祉の重要性について学んだ。1年間では、次のような学習を行った。

6月	福祉講座「福祉って何だろう。」	11月	アイマスク体験 盲導犬について学ぶ 点字サークルの方による点字体験
7～ 8月	調べ学習 ・高齢者福祉について ・身体障がい、視覚障がい、聴覚障がいについて	12月	聴覚障がいの方から学ぶ（手話体験） 「コスモスの里」の方との年賀状の交流
9月	高齢者疑似体験	1月	福祉ボランティア講座 「わたしのちょボラ宣言」をまとめる
10月	車いす体験	2月	まとめの新聞づくり

2 福祉体験学習

社会福祉協議会の方や障がいのある方をできるだけお招きし、紙面や本では分からないことを、体験したり生の声を聞いたりすることを大切にしました。その中で児童は、高齢者の方や障害のある方は、自分たちと同じように身体を動かしたり活動したりすることができることと十分できないことがあることを具体的に学んでいった。そしてこれらの学習を通して、児童は福祉の重要性に気づき、福祉とは、「**ふ**だんの **く**らしを **し**あわせに」する営みで、自分たちにできることはたくさんあることを学ぶことができた。



社会福祉協議会の方から学ぶ



高齢者疑似体験



車いす体験



アイマスク体験



盲導犬について学ぶ



点字体験

【児童の学び】

- ・アイマスクを付けたら、まわりが真っ暗でとても怖くなりました。前に何があるのかわからないので、歩く時も一歩を踏み出すのがとても怖かったです。改めて、補助の人が必要だとわかりました。
- ・今まではお年寄りや障がい者の方を見ても、特に何も思わなかったけれど、とても補助が必要なんだと思うようになりました。急にはできないかもしれないけど、少しずつ進んでお年寄りや障がい者の方に声をかけていきたいと思います。



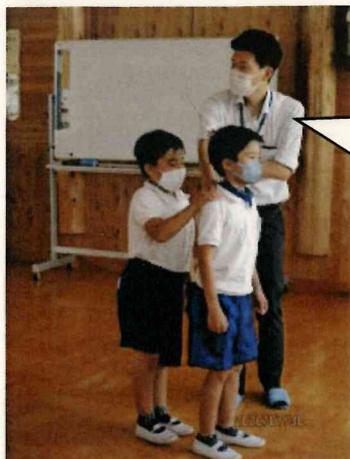
手話について学ぶ

令和2年度 福祉教育推進事業報告

各務原市立稲羽西小学校

稲羽西小学校では、4年生が総合的な学習の時間に福祉について学習しています。

アイマスク体験（7月30日）

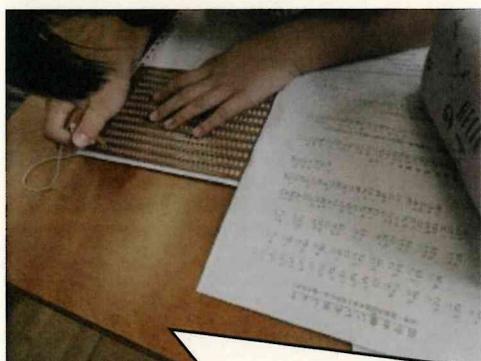


ペアで「手引き体験」を行いました。まず、介助の仕方を教えてもらいました。肩に手を添えてもらって案内します。

次に、アイマスクをつけての実践です。状況や障害物を伝えながら進みます。アイマスクをした児童は、目から情報が入らないことに戸惑いを感じていました。



点字体験（9月8日）



点字は、目が不自由な方にとって大切な情報伝達の手段の一つです。子どもたちは自分の名前や住所を点字で打つ練習をしました。なかなか難しいようです。

点字は上の行の右から左に打っていきます。指先で触って読むときには、裏表逆になります。点字で打った「あ」を読むときには、右左が逆になっているということです。

福祉講話 盲導犬（10月27日）



藤田さんのお話から、藤田さんが、ありったけの愛情をバルちゃんに注いでいらっしやることが伝わってきました。バルちゃんがいることで藤田さんの生活は幸せになっているのですね。

藤田さんと盲導犬のバルちゃんを招いて学習しました。4年生のこどもたちを前にしても、動じることなく藤田さんの指示に従います。

このような体験を通して、福祉（ふだんのくらしをしあわせに）を学んでいきます。その根底にあるものは、相手のことを「思いやる」気持ちで、これは稲羽西小学校が先輩から引き継ぎながら大切にしているものです。

令和2年度 福祉教育推進事業 おもな活動の様子

各務原市立稲羽東小学校

学校、家庭、地域が力を合わせる「茶摘み」80年の伝統を守る



今年度は、新型コロナウイルス感染拡大による臨時休業中で、実施できませんでした。それでも、4年生が茶畑の草取りなどの手入れをしました。また、6年生は、思い出に茶娘の衣装を着ました。



見まもり隊との交流会

毎日、児童の登下校の安全を見守ってくださる「見まもり隊」の方々に、児童が感謝の気持ちを伝えました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大による臨時休業により、対面式は実施できませんでしたが、交流会では、児童一人一人が「ありがとう」のメッセージを隊員の方々に伝えました。日常の当たり前と思えることに感謝をする、よい節目となりました。



花いっぱい 학교に

3年生が、校舎南側の花壇やプランターにパンジーなどの花苗を植えました。玄関や校舎周辺に飾ります。また、卒業式や入学式での飾り付けとして、式場で卒業生の門出や新1年生の入学を祝います。

ボランティアいっぱい

1～6年生の全校児童がボランティア活動に積極的に取り組み、ボランティア手帳で50回完了を見事達成しました。夏には草抜き、秋には落ち葉拾い、冬には3年生があいさつ隊で元気な声を仲間へ届け、貢献するよさを感じていました。



高齢者疑似体験

市社会福祉協議会の方を講師に招き、5年生がヘッドホンや特殊眼鏡、手足のおもりなどの疑似体験装具を装着して、日常生活動作を擬似的に体験しました。高齢者の気持ちを理解し、コミュニケーションのとり方などを体験的に学びました。

各務原市立川島小学校 福祉教育推進事業

様々な障がいについて理解を深める活動



視覚障がいの方や車いすで生活している方の生活を知るために、体験活動を行いました。アイマスク体験では見えない生活の大変さを、車いす体験では車いすで生活することの大変さを、実感を伴って知ることができました。



アイマスクや車いすを体験し、盲導犬を利用される方と介助犬を利用される方の講話を聞きました。自分たちが体験したよりも大変な生活をしていると実感しました。手を差し伸べることの大切さを学びました。

ボランティアについて学ぶ



地域のフィールドワークを通して、ごみがあることに気付き、ごみ拾い活動を行いました。障がいのある方の話で学んだ「手を差し伸べる大切さ」は、障がいのある方を助けることだけでなく、様々な場面でボランティアをすることで広げることができると気づきました。

思いやりの心を育てる取組



4～6年生の児童が、地域の一人暮らしの高齢者へ年賀状を、心を込めて書きました。

ボランティアの心を育てる取組



アイマスクをつけて校内を歩いたり、車いすに乗って段差のある場所を移動したり、高齢者の疑似体験をしたりしました。各活動を通してその人の気持ちや、介助の仕方や接し方について深く考えることができました。



その時々に分ができるボランティアを見つけ、自主的に活動できました。

校長室、職員室前の廊下は、「あったか行動」で校長先生から表彰された児童の写真や、「ボランティア50回」の達成者の名前の掲示でいっぱいです。ボランティアの心が高まっています。



令和2年度 福祉教育推進事業 活動報告

鵜沼第二小学校

1 「福祉って何？」オリエンテーション

社会福祉協議会より、細野さんに講師として来ていただいた。福祉の概要を学ぶことで、これから学ぶ意欲を高めた。児童の興味関心も高く、たくさん質問をすることができた。



2 障がいをもつ方・高齢者について考える体験

① 車いす体験 ② アイマスク体験 ③ 高齢者疑似体験 ④ 手話体験

様々な体験活動を通して、障がいをもつ方や高齢の方の不便さや介助の仕方を学び、理解を深めることができた。



3 講演会

盲導犬・介助犬ユーザーの方の話を直接聞くことを通して、その大変さや気持ちを知ることができた。また、今年度は初めて「知的障害について学ぶ講演会」で講師の方を招いて、お話を聞き、優しい気持ちで支え合うことの大切さを学ぶことができた。



4 地域とお年寄りとの交流

今年度は、直接関わりをもって交流することはできなかったが、残暑見舞いや年賀状を書いて交流することができた。返事をいただいたり、お電話をいただいたりすることができて、児童も嬉しそうだった。

令和2年度 鵜沼第三小学校福祉教育推進事業報告

各務原市立鵜沼第三小学校

地域のボランティアの方々をお迎えし、花の苗植えやニンジンの苗植え等の活動を行い、命の大切さとともにボランティアについて学んだ。



5年生総合的な学習の時間に「高齢者体験」と「車椅子体験」を行い、高齢者や車椅子で生活する方の立場になって福祉を考えた。



美化委員会が中心となって、花壇づくりを行い、ボランティア活動の啓発を進めた。



◇児童会活動～「計画委員会」「ボランティア環境委員会」を中心として～

計画委員会では「あったかい言葉かけ運動」と「緑苑まつりゴーゴGO！」を、ボランティア環境委員会では、「全校ボランティアの日」を計画し、委員会の児童が全校児童に働きかけることで、主体的に1年間を通して活動することができた。さらにボランティア環境委員会では地域の有志の方々と「学校環境美化活動」の一環として花壇づくりを行った。またPTAが地域からの提案を受けて「マスク」の寄付を受けることとなり、その報告を地域に発信することで、全校児童が社会貢献を身近に感じることができた。



◇地域や外部団体との交流を通じた福祉教育について

今年度は、地域の「リョクエンナーレ実行委員会」と連携をして、児童と保護者、地域の方々をつなぐ活動として、新規事業「緑苑の樹」を制作した。さらに、この会で交流した地域の方々からは、卒業式に手作りのお祝いカードをサ



プライズでプレゼントしたいという要望や、来年度以降も内容を充実して長く継続したいという提案を受けて、学校として大変楽しみにしている。全校児童は、これらの交流活動により、支え合う社会の仕組みやそれを支援する人の思いや行動に直接触れることができ、思いやりの心や福祉の心の涵養を図ることにつながっている。



さらに今年度は、新規事業として「県立関特別支援学校就労支援オフィス」の方々に、7月以降、原則毎週水曜日に来校していただくことができた。この機会に、児童が行う「いっしょに掃除」の清掃活動と連携し、定期的に清掃活動や校内整備などの活動ができ、「福祉活動」を日常の中で体験的に学ぶことができた。



また5年生は、恒例の総合的な学習の時間のテーマとして「福祉教育」に取り組んだ。今年度は、特に社会福祉協議会から講師として計5回の講座を実施していただくことで、「福祉の心」についてより体験的に深く知ることができた。



今年度はコロナ禍で、できないことや特別に配慮を要する点はたくさんあったが、それでも「今だからできる福祉活動」を考え、リョクエンナーレ実行委員会や就労支援オフィスの方々とながかり、いくつもの新規事業ができたことを振り返ると、大変意義深い1年であったと考える。



1 児童によるボランティアの取組と啓発活動

【あいさつボランティア】



【花植えボランティア】



【落ち葉拾いボランティア】



コロナ禍の状況で、自分たちに何ができるかを考えて、できることを工夫して活動した。ソーシャルディスタンスを保ちながら、挨拶運動をしたり、花植えボランティアに取り組んだりした。今年度は、全校児童の90%以上にあたる190名が、「ボランティア50回」を達成した。達成した6年生からは、「来年度は中学生。地域でのボランティア活動を頑張っていきたい。」という力強い言葉が聞かれ、6年間の積み重ねの成果となった。

2 福祉体験

【ブラインドウォーク】



コロナウイルス感染防止のため、講師を招いたり、地域の施設を訪れたりすることができなかった。6年生「総合的な学習の時間」に、ブラインドウォークを体験したり、DVDを活用して福祉への理解を深めたりした。ブラインドウォークを体験した6年生からは、「怖かった。目が不自由な方は、いつもこんな気持ちでいることが分かった。街で見かけたら、声をかけ、私にできることをしていきたいです。その時には、押し付けにならないように、相手の気持ちを大切にしていきたいです。」と、感想が聞かれました。

3 地域との交流

【ボランティアハウスの方へ】



【見守り隊の方へ】



【作成したプレゼント】



地域の施設へ出向いての交流はできなかったが、「コロナに負けないで、お互いがんばりましょう」という気持ちも込めて、ボランティアハウスの代表の方や地域でお世話になっている方に、環境委員会と校内ボランティアを募って植えたり世話をしたりした鉢花と、手作りプレゼントのメダルを作成して贈った。

令和2年度 福祉教育推進事業 実施報告書

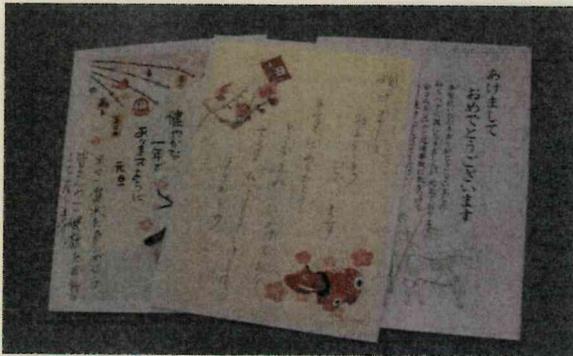
アイマスク・高齢者体験

(4年生)

アイマスクをしてペアで階段を上り下りしたり、高齢者体験をしたりして、不自由さを実感しました。これらの体験により、様々な立場を理解して、自分たちにできることは何かを考える学習となりました。



独居老人への年賀状(4年生)



地域に住んでみえる独居老人の方に年賀状を書きました。学校で頑張っていることや地域での見守りの感謝を伝えました。たくさんの方から返事をいただき、「書いてよかったな。道で会ったら挨拶をしよう。」という気持ちになりました。

ボランティア活動の推進(全校)



ボランティア手帳を活用して、どの児童も50回達成に取り組んでいます。廊下には50回達成するたびに温かい心が掲示してあります。人のために行動する喜びや役に立つ嬉しさを感じながら、全校の8割近い人数の児童が、ボランティア表彰を受けました。

4年生 総合的な学習の時間「福祉教育」

福祉協議会講師の方々から福祉の基本的な知識や支え合う社会の仕組みを学び、福祉の必要性や重要性を理解することができた。目の見えない人のために働く盲導犬を実際に目にしたり、点字や手話について話をお聞きし自分も行ったりすることで、障がいのある人を支える様々な手立てに興味や関心をもつことができた。また、疑似体験をすることによって、高齢者や障がいのある人の不便さや気持ちを理解することができた。こうした学習が、日常生活においても、自分を取り巻く多くの人に対しての思いやりの心情をはぐくむと考える。



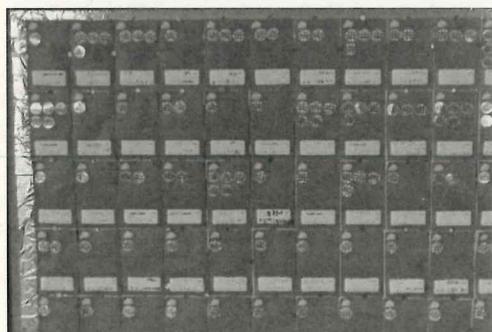
児童会 福祉・美化委員会「環境整備活動」

福祉・美化委員会では、「掃除」「苗植え」等の環境整備に関わる活動を、年間を通して行うことができた。昼休みなどを使って、各教室の普段できない所の清掃や運動場の雑草抜き、アスファルトの落ち葉集めなど、学校の環境を美しく整えるための活動を進んで行うことができた。特別教室等の汚れや破損した個所を見つけ、清掃等を行った。そうした姿や呼びかけから、全校の児童も加わり、学校を美しくしようと進んで働く姿が見られた。



「ボランティア手帳」の活用の推進

福祉・美化委員会の呼びかけによる清掃ボランティアと共に、家庭でもボランティアを行う児童が多く見られた。学校や家庭でのボランティア行為を「ボランティア手帳」に記録し、掲示等で広めたことによって、児童の意欲がよりいっそう喚起され、ボランティア活動に取り組む児童が増えた。2月には、「ボランティア手帳50回」を全校で9割以上の児童が達成することができた。



福祉教育推進事業（令和2年度）

蘇原第一小学校

☆福祉体験学習（5年生）



総合的な学習の時間に行った「福祉を考える」の学習では、障がいのある方から直接話を聞いたり、疑似体験をしたりする中で、本当の思いを知ることができた。本やインターネットを使って調べ学習をするだけでは知り得ないことを知ることができた。自分の仕事にやりがいを感じ、明るく活力のある生活をおくる生き方に触れ、児童は自分に何ができるかを真剣に考えることができた。

☆感覚統合・体幹トレーニング



バランスボールや、ピンポン玉や新聞紙等を使って、感覚統合と体幹のトレーニングを実施した。また、マークプレートを活用したサーキットトレーニングを体育授業等に位置付けることで学習や生活の充実に必須の姿勢・筋力・眼球運動のコントロールの基礎を養うことができた。

令和2年度 各務原市福祉推進校事業 実施報告書 蘇原第二小学校

<ボランティア活動>

福祉委員や高学年児童が中心となって、清掃活動や草抜き、落ち葉拾いをしました。ボランティアの心が広まり、自分から進んで清掃活動に取り組む児童の姿が増えました。



<6年生・総合的な学習の時間>

社会福祉協議会の方からの講話を聞き、視界の悪さや体の動かしにくさを実際に体験しました。講話と体験を通して、高齢者の方々への理解を深めると共に、身の回りの福祉について学習しました。



<ユニセフ書き損じはがき・募金>

福祉委員会中心に、ユニセフの募金活動を行いました。



福祉の学習では、5年生が「人にやさしい町づくり」をテーマに、①聴覚障がい者について②視覚障がい者について③肢体不自由者について1年間学んできました。

実際に障がいをもってみえる方のお話を聞いたり、体験をしたりすることを通して、「人にやさしい町とは」「自分たちにできることは何か」を相手の立場に立って考えることができました。

点字体験から学ぶ



視覚障がい者から学ぶ



盲導犬がいることで、いろいろな所へ出かけていくことができるし、視覚障がい者の方は、道具を使って工夫しながら生活してみえるということが分かった。



アイマスク体験では、階段の手すりや点字ブロックが助けになることや、隣りで歩いてくれる人の声がとても支えになることが分かった。

車いす体験から学ぶ



1. 新型コロナウイルスに配慮した、福祉施設との交流

新型コロナウイルス感染予防により、直接的なふれあい活動が難しいため、今年度は、ボランティア委員会が中心となって寄せ植えをつくり、それを福祉施設に届ける活動を行った。間接的な交流ではあるが、お年寄りの方に花を見て和んでいただくことを通して、福祉への関心を高めることができた。



コロナ禍の中でもできる交流は何かということで、花の寄せ植えを福祉施設に届けることになりました。お年寄りの方々が、お届けした花を見て、楽しい気持ちになっていただけると嬉しいです。

(3年生徒)

自分たちが植えた花を通して、福祉施設の方と交流できました。笑顔をつくることができ嬉しかったです。(3年生徒)

2. ボランティア活動を推進する



来校いただいた方に気持ちよく花で出迎えたいとの思いから、校門前や玄関前等、様々な場所に花を植え、水やりや雑草を抜くなどの活動を続けました。

また、校庭や学校北のビオトープを美しくしようと多くの生徒が草刈りや落ち葉はきに参加しました。

ボランティア手帳

50回認証428人

活動の様子

◇桜つなぐ活動

新型コロナウイルス感染症の影響で、一人暮らしのお年寄り宅を訪問することができませんでした。一人暮らしをしている高齢者宅へ、クリスマスカードと年賀状を作って送りました。



◇車いす体験活動 車いすの利用

本年度購入した車いすを使って、体験活動を行いました。学校のバリアフリーの一環として作ってもらったスロープで行いましたが、少しの段差、少しの坂でも上ることが難しいことを体感しました。また、立って歩くことが困難な生徒も車いすを使用しました。



特別養護老人ホーム『つつじ苑』との交流

1. 計画・実施状況

- ・フラワースタンド・プランター・花苗・土・肥料などを購入した。
- ・以下の活動の目的を生徒に説明し、ボランティアを募った。

○地域にある特別養護老人ホームの存在を知り、自分たちで花を育て贈ることで、地域や高齢者の方、障害をもつ方への理解を深め、積極的に関わっていこうとする態度を育てる。

- ・8月6日・11月4日の2回、苗植えを実施し、水やり当番等を決めて花を育てた。
- ・緊急事態宣言解除後、つつじ苑の理解を得て、フラワースタンドとプランターを寄贈した。



●第1回目の花の苗植えと、フラワースタンドでの設置



●第2回目の花の苗植え



●生徒による水やりと、生徒玄関での花の育成



●つつじ苑訪問

2. 成果と課題

- 目的を明確にし、生徒に説明をすることで、その意図を理解し多くの生徒が意欲的に活動に参加することができた。
- 改めて地域に特別養護老人ホームがある事を知り、高齢者や障害のある方への理解を深めることができた。
- 地域や高齢者のために、自分もできることがあることに気づくことができた。
- コロナ禍における制限や活動の難しさがあった。

【令和2年度 各務原市福祉教育推進事業 活動報告】

各務原市立川島中学校

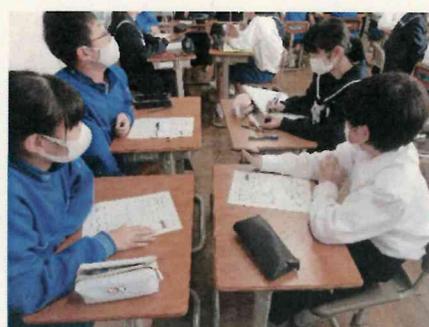
1. 地域の方のアドバイスをもとに花壇づくり

11月、プール南側の道路沿いにある花壇に花の苗植えを実施。ボランティア委員会の生徒と、ボランティア活動の呼びかけに応えた生徒が参加。歩道を通りかかる地域の方々が気持ちよくなるように、ひとつひとつ丁寧に植えた。



2. あったか仲間プロジェクト

年間を通して、全校で仲間のよさを見つけ、その価値を交流していくことで、人間関係の中で生まれるあたたかさを広め、人権尊重の風土を創り出す取り組みを実施した。



令和2年度 福祉教育推進事業実施報告書

各務原市立緑陽中学校

<フラワーエンジェル活動>

「フラワーエンジェル」とは、緑陽中学校区で、一人暮らしをされている高齢者宅を訪問し、体育祭や合唱交流会の案内状をお届けしたり、花やメッセージカードを届けて語らいの場をもったりするボランティア活動である。

今年度は直接の交流はできなかったが、手紙やメッセージ、花を贈って、ふれあい活動を行った。



9月、地域ごとに分かれて、高齢者の方に手紙を書きました。



福祉委員会が中心となって、活動計画立案や運営を行いました。



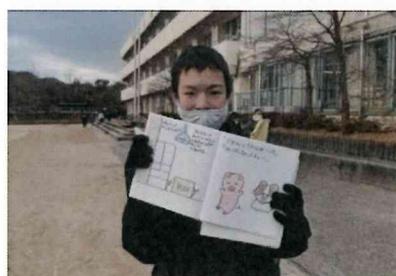
書いた手紙をポストイン。9月は直接の交流を避けました。



12月、クリスマスメッセージカードを作成しました。校区の幼稚園にも対象を広げました。

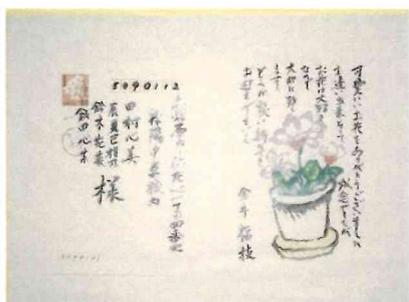


可能な方には、距離を取りつつ、カードと花をお渡ししました。



心を込めて作ったメッセージカード。喜んでいただけると有難いです。

「フラワーエンジェル」のお礼として、お手紙やはがき、電話など温かいメッセージをたくさんいただきました。



生徒の活動の振り返りから、直接の交流は、本年度できなかったが、喜んでもらえたり、お礼をいただいたりしたことで、ふれあいの充実感を味わうことができた様子が見えた。地域の方との交流から、互いが尊重し、かわり合うことの大切さを学ぶことができた。

■ ひびきあい活動

〔学校が培いたい行動力〕

- ・身近な生活の中にある不合理なことや差別事象をとらえたり、見抜いたりすることができる力。
- ・生活を振り返り、自己の心の中にある偏見や差別的な見方や考え方を改めようとする力。
- ・日常生活の中の人と人とのかかわりにおける差別事象に対して、正しく行動することができる力。

〔今年度の重点〕

ひびきあい活動では、LGBT人権講演会で当事者の体験談を聴き、生き方や考え方には多様性があることを認識し人権意識の醸成を図った。また、多様性を受け止め他を尊重する資質の育成を図るために、授業における対話活動のルールを確認したり、自由に発言しやすい環境を作るにはどうしたらよいかを話し合ったりした。

〔実施概要〕

本校では「尊重」を学校運営のキーワードの一つとしている。性の多様性について考えることを通して、人には多様な価値観や思考があることを受容し他を尊重する資質の育成を図ること、また性的マイノリティーといわれる人が世の中に一定数存在しており、本校にも同様の傾向があると考えられることから、LGBTの方による人権講演会を実施した。

① 事前の取組

全校学活では、授業の中で「わからない」を「わかる」にするためには、「わからなさ」を表出させることが重要であることを確認した。発言しやすい環境を作るために、「自由に発言していい」「自由に質問していい」「人の発言を否定しない」等の対話のルールを整え、それらが相手を尊重することにつながるという事を確認した。

② 当日の取組 (LGBT人権講演会)

LGBTの方のライフヒストリーを聴き、性の多様性について考えることを通して、性の多様性だけでなく人には多様な価値観や思考があることを理解した。互いに認め合い、支え合っていくことが大切であると学び、日常の生活でも相手を「尊重」する生き方を実践しようと考えることができた。

③ 事後の取組

授業で多様な考え方や意見を受け止めることを繰り返すことを通して、日常生活の中で発生する意見の対立や理解の相違を自分たちで解決ができるように意識していく。

■ LGBT 講演会 [令和2年11月20日(金) 13:50~15:00]

〔ねらい〕

- ・LGBTについて正しく理解することを通して、社会で共に生きる人々の多様性を理解する。
- ・人は多様な価値観や思考をもつことを理解するとともに受容し、共によりよく生きる社会を創造する考え方を育む。

〔活動内容〕

・特定非営利活動法人ASTAによる講演会

- ① LGBT についての基礎知識を学ぶ
- ② 講師 A, 講師 B (LGBT 当事者) のライフヒストリーを聴いて学ぶ
- ③ トークセッション



〔生徒の感想〕

世界中にはいろいろな人がいて それぞれの考えや、感じ方があって、いいことがあってもいいし、悪いこともあって、いろいろな立場にたっている。自分も好きにやり、周りの人も好きにやり、いいと思えばいい。

今回特に大切なことは ALLY の存在です。カミングアウトは大切な決断が必要で、今和苦しいことを我慢して下のか、全てを理解することは難しいかもしれないが、相手を受け入れ、認めることはできると思いました。知る、知る、透明な「知る」は必要だと感じました。トークセッションの世界に、自分より私たちが1人1人が決めたことにならなくて、変わってあかされるようにしています。ご記入ありがとうございました。スタッフにお渡しください。ありがとうございます。

■ひびきあい集会



今年度のひびきあい集会は、12月18日（金）に岐阜県揖斐郡池田町在住で手作り絵本作家として活躍されている後藤政幸さんをお招きし、講演会を開催しました。

後藤さんは、事故で左足失い、現在は義足で生活し、様々な所で講演活動を行っています。今回は、新型コロナ禍の中での実施のため、学年別に体育館で講演会を行いました。

「命 生かされて」という演題で、学年に応じて内容を少しずつ変えながら話をさせていただきました。体験に基づいたエピソードや、ご自身で作られている絵本の読み聞かせをしていただき、生徒が人権や福祉に関して考える良いきっかけとなりました。

〈生徒の感想より〉

怪我をしたから、障がいがあるから、もう人生ダメだと思わず、感謝の気持ちを持ち、今をポジティブに生きてみえる後藤さんがとても素敵だと感じました。後藤さんの本を読み聞かせてもらって、とても素晴らしいと思いました。私には将来医者になりたいという夢があります。その夢に向かうためにも、これからどんなときにも前向きに常に人に感謝を伝えられる人になりたいと気持ちを新たにしました。

■ボランティア活動

生徒会の福祉委員会が中心となり、各務原市の福祉活動に役立ててもらおうと、アルミ缶の回収ボランティアを全校に呼びかけ、定期的に活動を実施した。

また、「ボランティアの日」を設定し、昼休みなどを利用し有志で校内の落ち葉や石を拾う清掃活動を計画実施した。多くの生徒が参加する中で、仲間と声を掛け合い楽しみながら活動に取り組む生徒の姿が見られた。



活動1 認知症 VR 体験学習

日 時：令和2年9月8日（火）

対 象：福祉科2年生 ケアワーカーフィールド23名

「愛の家グループホーム」の職員を講師に招き、認知症 VR 体験を行いました。これまで学んだ認知症に関する知識を深め、VR 動画を通して認知症を主体的・体験的に学びました。また「当事者意識」をもつことにより、認知症のある方の具体的な支援方法について考える機会になりました。

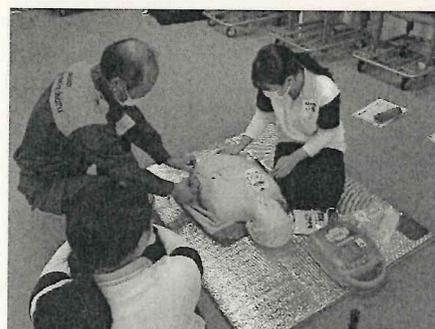


活動2 救命講習会

日 時：令和2年12月16日（水）

対 象：福祉科2年生 ケアワーカーフィールド23名

「各務原市消防本部」より3名の講師を招き、救命講習会を受けました。専門科目・生活支援技術「医療的ケア」で求められる心肺蘇生法の技術を習得するために行いました。正しい呼吸ができていないのか確認することや一人で胸骨圧迫を行うのは大変だということが分かり、周りに協力を求めることや勇気を出して助けることの大切さを学ぶことができました。

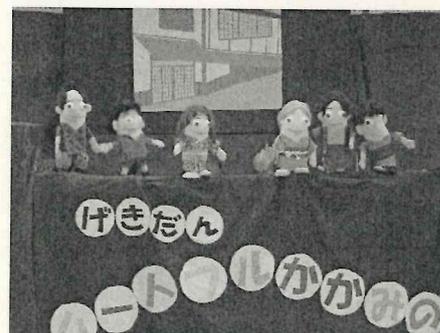


活動3 保育技術発表会

日 時：令和3年1月25日（金）

対 象：福祉科3年生 子ども福祉フィールド6名

子ども福祉フィールドにおいて3年間学んだ保育技術や保育実習での経験を生かして発表会を行いました。今年度は、創作人形劇やペープサート、パネルシアター、ハンドベル・トーンチャイムを実演しました。専門科目で学んだ成果を、個人又はグループで発表することで卒業後の進路実現への意欲にもつながりました。



活動4 実習棟大掃除

日 時：令和3年2月10日（水）

対 象：福祉科1年生40名

午後の時間割5・6限を使用し、実習棟の大掃除を行いました。自分たちの学びの場としてお世話になっている場所を感謝の気持ちこめて清掃活動に取り組むことで、自分たちの住む地域がきれいに保たれている背景には多くの人々の協力があることを知る良い機会になりました。



令和2年度 福祉教育推進事業 実施報告書

＜ 高齢者・障がい者・聴覚障がい・視覚障がい疑似体験 ＞ テーマ：思いやり

各務原市立各務原特別支援学校

高等部2年

総合的な探究の時間（前期）

今年度の総合的な探究の時間は、前期は金曜日の1, 2時間目。後期は3月に一週間かけて行いました。2年生のテーマは「思いやり」です。疑似体験グッズや車いすなどの体験を通して、高齢者や障がい者との関わり方について学習しました。6月19日に生徒たちは高齢者疑似体験グッズを付けて歩いたり階段を上ったりして見て、関節が思うように曲げられない不自由さに驚いていました。また、車いす体験では、基本的な操作や段差の上り下りを行い、段差を上るときや狭い通路を通るのに苦戦する姿が見られました。



アリーナでの疑似体験



階段昇降



車イス用トイレ



車イスの段差介助

総合的な探究の時間（後期）

後期の総合的な探究の時間は、3月12日～19日までの約1週間、まとめ取りで実施をしました。初日は社会福祉協議会講師より各務原市の福祉や聴覚障がい者・視覚障がい者の人数や割合、支援方法等について学びました。また、翌週に講師として聴覚障がい者や視覚障がい者の講師の方を招き、障がいの状況から地域の環境、人とのコミュニケーション、仕事、余暇活動等について具体的に話していただきました。また、それぞれの障がいの疑似体験を通して、その不自由さに気づき、支援について考えることができました。



講演：市の福祉について



聴覚障がい疑似体験（耳栓やイヤーマフを利用）





講演：聴覚障がい者



イヤーマフを利用して対話体験



正面で向き合っの対話



視覚障がい疑似体験（アイマスクと白杖・点字ブロック移動体験 アイマスクでの窓の開閉・手洗い）



講演：視覚障がい者



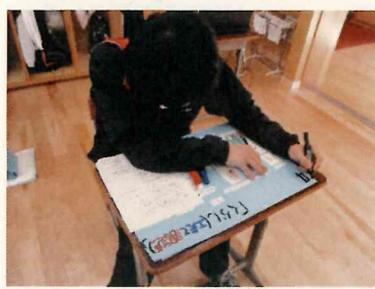
視覚障がい者 利用定規



講師への質疑応答



点字作製体験



発表に向けて掲示物等の作成



前期も後期も、活動の最後には、疑似体験や講話から学んだことや自分が聴覚・視覚障がいについて主体的に探究をした課題を仲間に発表することができました。また、自分ができる「思いやり」活動について考え、発表することができました。